

序

今年度の全国学力・学習状況調査では、教科に関する調査において、国語、算数・数学に加え、4年ぶりに英語の調査（中学校のみ）が実施されました。特に、C B T方式で行った英語「話すこと」調査については、運営に当たり、各学校の先生方、所管教育委員会の方々に大変御苦勞をおかけしたことを思います。この場を借りて御礼申し上げます。

教科に関する調査結果について、本県は「すべての教科において、平均正答率が全国と同等」であるものの、「全国と比べて、記述式で解答する設問に対する正答率が低く、無解答の児童生徒も多い」ことなど、継続的な課題も見られました。

また、質問紙調査では、今年度は、英語の学習状況に関して「学校における言語活動等の取組状況」「英語学習に対する興味・関心や授業の理解度等」「授業外における英語学習の取組」など詳細な調査が行われました。本県の子供たちは、全国と比べて、「英語の勉強が好き」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい」と考えている児童生徒が多いことがわかりました。

その一方で、中学校での英語の授業における言語活動の取組については、課題が見られる状況であり、英語学習における5つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）のうち、複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を充実させていくことが重要です。

さて、県総合教育センターでは、全国学力・学習状況調査に係る分析・研究を行うとともに、各学校における活用促進に向けて様々な取組を行っています。本手引きでは、本県の結果分析資料を中心にまとめていますが、今年度からタイトルを「全国学力・学習状況調査活用の手引き」と改め、各学校における校内研修での活用や、教員一人一人の資質向上につながることを意識し、有効な情報を多く掲載しました。

各学校におかれましては、自校の成果と課題を把握・分析し、家庭や地域との連携を図りながら、実態に応じた取組を行うことが求められます。各教科の正答率ばかりに気を取られることなく、思考のプロセスに目を向けて改善方策を講じるなど、指導改善に活かしていく中で、児童生徒の学力向上へ向けた取組を一層充実していただくようお願いします。

千葉県総合教育センター
所長 鉄井 修一

目 次

序	1
目次	2
I 全国学力・学習状況調査の概要	3
1 令和5年度調査の概要	4
2 令和6年度調査の予定	4
II 令和5年度 千葉県の調査結果	5
1 結果の概要	6
(1) 教科に関する調査	6
①令和5年度教科別調査結果（平均正答数及び平均正答率）	6
②学校種別・教科別の平均正答率（全国比）の経年変化	6
(2) 質問紙調査	8
①児童生徒質問紙調査	8
②学校質問紙調査	9
2 結果の詳細	10
(1) 教科に関する調査	10
①小学校国語	10
②中学校国語	14
③小学校算数	18
④中学校数学	22
⑤中学校英語	26
(2) 質問紙調査	30
①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	30
②児童生徒の学習時間、教科に対する興味・関心の状況	32
③ICTを活用した学習に関する取組状況	34
④英語の学習状況等	36
⑤本調査の記述式問題に対する児童生徒の取組状況	38
⑥児童生徒の自己有用感、幸福感等に関する状況	39
⑦全国学力・学習状況調査の結果活用に関する状況	40
III 県の「分析シート」の活用	41
1 「分析シート」の準備	42
2 「分析シート」の構成	43
(1) 教科・質問紙分析シート	43
(2) 経年分析シート	44
(3) クロス集計シート	45
(4) 誤答分析シート	46
IV 学校における活用の充実	47
1 活用推進に向けた校内体制	48
2 校内研修の具体例	48
☆ トピック1 市町村教育委員会等の取組について	50
V 質問紙調査回答結果集計データ	51
1 児童生徒質問紙調査	52
2 学校質問紙調査	59
VI 役立つコンテンツの御紹介～県教育委員会 HP から～	69
1 「全国学力・学習状況調査」を活用した授業改善	70
2 「全国学力・学習状況調査」の問題・結果データの活用	71
☆ トピック2 「全国学力・学習状況調査の活用状況」に関するチェックシートの例について	72